

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400245		
法人名	サンキ・ウエルビィ株式会社		
事業所名	グループホーム出雲		
所在地	島根県出雲市大社町北荒木1313		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成24年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成24年11月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「愛されること」「ほめられること」「役に立つこと」「必要とされること」を事業所の理念に掲げ、日々取り組んでいます。認知症になっても家族の一員として役に立ち、家族から愛され、地域から必要とされるような支援の方法を模索し実践できるように努めています。当事業所は小規模多機能型居宅介護を併設しており将来的に入居を希望される方も小規模多機能から移行でご本人のリロケーションダメージも少なくスムーズな入居が可能な事業所になっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

大社町の市街地にある施設からは、住民のふるさとの象徴でもある北山がいつでも眺められ、利用者さんは毎日のように北山を話題にするなど地元に住んでいるという安心感を抱いている。開設して4年が経過する中で、当初は困難であった地域との交流も親しく濃密になりつつあり、施設長始め職員全員が認知症高齢者へのケアの実践に自信を持つとともに、利用者さんが気持ちよく楽しく暮らせるようなグループホームの質の向上を目指している。併設の小規模多機能型サービスとの連携もスムーズであり、利用者個々の状況に応じた入居も適切に行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を月1回のミーティング時に職員で復誦し共有して実践につなげている。	認知症が進んでいる利用者さんもおられるが、出来る範囲で出来ることを見つけ、話し合いながら、職員とともに生活を楽しめるよう支援することで、理念の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、事業所の行事に地域の方に参加していただいたりして交流している。	地域との交流のためには、認知症についての理解も不可欠と、施設長やスタッフが地域住民へ向けて認知症サポーター養成講座を事業所内において開催していることは意欲的である。	地域の子供たちが気軽に立ち寄れて、子供もお年寄りも和やかに楽しめるような事業所作りを目指しており、町内会長さんや小学校への働きかけを行っていく計画がある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても誰かの役に立ち、必要とされながら生活して頂き、住み慣れた地域の中で安心して暮らしていけるよう地域住民に向けて認知症サポーター養成講座を開催し認知症についての理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、取り組みの状況を報告し話し合い、そこで出た意見を参考にしサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、活発な意見が出されており、町内でのお祭り等の行事に参加したことなども町内会長さんを交えて話し合われている。行政、地域を含めた話し合いにより、ホームの質の向上が図られている。	今後は、2ヶ月毎の会議の開催を目指して調整している。また、家族さんにも参加を求めるなど、より充実した会議への取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者に出席していただき事業所の取り組み状況を報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在は処遇困難は、解消されているということで、ホームは、穏やかなよい雰囲気である。行政からの主導で町内会長さんを紹介してもらおうなど、ホームのよいケアについて、市との連携も密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現任研修により身体拘束を学び、理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルだけでなく、新情報や、DVDなど、身体拘束についての研修がしばしば行われ、日常の利用者の生活が尊重されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現任研修により虐待を学び、日常的に身体観察や利用者の声に耳を傾け、虐待が見過ごされないよう注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会を持ち、まだ活用したことはないが必要に応じて活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、理解・納得してもらえらるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、その都度意見や要望を職員や管理者に提案することができ、反映させるよう努めている。	利用者さんとのコミュニケーションは、言葉だけでなく、表情や行動などからも察したり、また面会時などに直接家族さんとも、状況やケアについて会話をし、細やかな配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見をミーティング時やその都度管理者に提案することができ、反映させている。	会議やミーティングでは、職員から活発に意見が出され、ケアに活かされている。日々の細かな変化や出来事も皆で共有し、利用者さんにとってのよりよい生活の実現を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況を把握し、職場環境・条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の状態を把握し、研修や講習を紹介し受講できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員が同業者との交流を図ることは難しいが、今後勉強会への参加、相互訪問等の活動ができるよう取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを密に図り、よりよい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望にできるだけそえるようコミュニケーションを図り、よりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今現在、本人と家族に何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事行為を共に行いながら、対等な一個人として、共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に利用者の状態を説明したり、月1回お便りをおくり現状を把握してもらい共に本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの本人の馴染みの人や場所の話を引き出し、記憶が希薄にならないよう努めている。	利用者さん一人では行けないところや家族でも外出が難しい処などへ、希望を叶えて出かけてゆき満足してもらえるよう取り組んでいる。近所での買い物やお墓参りなども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居心地の良い居場所作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供し支援していくよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人とのコミュニケーションを図り、本人の思い、希望を把握し、それに添えるよう努めている。	利用者と職員は、まるで家族のように親密に暮らしていると考え、日常のふとした仕草や、興味を示すことなどから、思いや意向を把握しケアに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過記録、個人ファイルにより利用者の“これまで”を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供記録、介護支援経過、日誌により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングを行い、より良いケアができるよう介護計画を作成している。	介護計画は、きめ細やかなアセスメントや職員からの意見を反映した個性的なものであり、状況の変化にも対応して、適切である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録、介護支援経過等個別に細かく記録し、職員間で情報を共有しながら実践につなげるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応しているが、まだサービスの多機能化には取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めてはいるが、まだ利用者への活用に至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切に、必要な時に受診、往診が受けられるよう支援している。	それぞれの意向に沿って、医療が受けられるよう支援している。緊急や急変時にも迅速な対応ができるようにしている。夜間は看護師にいつでも連絡出来る体制である。家族への報告や連絡も都度行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の変化を看護師に相談し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者に対しての情報提供を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では重度化や終末期の利用者がいないが、今後必要が出てきた場合、早い段階からの話し合いを行い、方針を決定し、チームで共有できるよう取り組みたい。	現在医療依存度の高い利用者さんがおられ、ターミナル対応への話し合いや受け入れ体制の調整を行っている。職員は、利用者さんや家族さんとの信頼関係がとぎれないように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現任研修で救急法を学び、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が避難方法を学んでいる。	利用者参加の避難訓練は、消防や地域住民も協力して年に2回行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を損なわないような対応を心がけている。	入浴で裸になるときや、排泄の援助のときにも、羞恥心に配慮した声かけや介助により、一人一人の尊重に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の思いや希望を聞き、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先ではなく利用者優先を心がけ、入浴、食事等一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型などその人らしさを大切にするよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回食事作りの日を設け、食事が楽しみになるよう心がけている。 日々、職員と利用者は一緒に味噌汁作りをしたり、おかずの盛り付けをしている。	普段は調理されたものを購入して、暖めて食卓に配膳しているが、盛りつけや、後片付けなどを出来る方にしていただいている。時々の手作りご飯の日や手作りおやつなども楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分量を記録し、一日を通じて確保できているか把握し、不足分を補えるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、本人ができることはしてもらい、職員が確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄援助は、利用者さん、職員ともにストレスフルであるが、本人の気分を損ねないよう、また、他の利用者さんにそれと悟られないような声かけと、介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を増やしたり、牛乳摂取等で個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に応じた希望やタイミングで入浴し、ゆっくり楽しんでもらえるよう努めている。	希望の時間がある方には、出来る限り、対応して、入浴が楽しく満足できるよう努めている。職員は、利用者さんがリラックスできるよう明るく親切に接している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、またその時の状況に応じて臥床時間や休息時間に対応し、安眠していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに薬が処方された場合は説明書を職員全員が回覧し理解するように努めている。毎回確実に服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日課や役割を持ってもらい、生きがいを持って生活してもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の生活の中での外出支援は散歩程度であるが、月1回程度利用者全員での外出ができるよう支援している。家族の希望による外泊や外出ができるよう協力している。	散歩は、周辺の道路をゆっくり歩いて、近所の人々と会話をしている。車での外出もしている。家族が本人と一緒に外出することも多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者が少なく、できる範囲での金銭所持の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話を希望されることはないが、家族、知人からかかってきた電話では気兼ねなくゆっくり話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや花を飾ったりして季節感を出し、テーブルの位置や日々席順を替えたりして工夫している。	地域住民とともに参加したお祭り風景の写真が玄関に飾られ、また、小さい置物や壁いっぱいのタペストリー、生け花、絵画など、施設全体に目を楽しませるために趣向がこらされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が同じテーブルにつけるよう配慮したり、ソファでゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はベッド以外は布団やタンスも本人の所有物を使用してもらっている。	個室は、清潔で明るい。いつでも、部屋で休んだり静かに過ごすことができる。家具や壁飾りなども利用者の個性が表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げになるようなものがないよう安全に注意している。		